

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
鹿児島大学歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL (099) 275-5289
FAX (099) 265-8434

発行責任者：地方会長 堀内正久

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

産業衛生に関する近況と所感

琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座 中村幸志



時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2023年春に九州地方会の理事を拝命しました琉球大学公衆衛生学・疫学講座の中村幸志（なかむらこうし）と申します。2019年7月に現職に着任し、同時に九州地方会に入会して、本稿を執筆している最中にちょうど5年が経ちました。産業衛生

と限定的な関わりしかない私が産業衛生の研究、実践及び教育に豊富な経験を有する方々が殊にたくさんいらっしゃる九州地方会にて理事を務めることに恐縮しています。

現職への着任前の一時期は産業医活動を休止していましたが、着任以降、本務先での兼務としての産業医活動の他に月に1回（数時間）程度の嘱託産業医活動を始め、少ない活動の中で産業衛生の研鑽を積むことに努めています。これまでに経験のない業態、小規模事業所の連合体であるグループ企業での活動、沖縄県では看過できない熱中症対策、この数年間のコロナ禍などを経験し、産業衛生の奥深さを感じています。今年度からは、化学物質を自律的に管理する方向転換にも対処せねばなりません。さらに、医療機関でもある本務先では、医師の働き方改革にも直面しています。

大学の教員である私が産業医活動での学びを活かさねばならない最優先事項は医学生への教育だと考えています。所属講座は医学部医学科内の唯一の衛生学・公衆衛生学系の講座ゆえ、科目責任者として産業衛生を含む衛生学・公衆衛生学の全てを網羅する形で教育にあたっています。残念ながら多くの医学生は履修前には産業衛生が自身には遠く縁のない領域であると思っているようです。しかし、現実には、中小規模の事業所の産業衛生を成り立たせているものの一つは、プライマリケア寄りの臨床医の方々の嘱託産業医活動です。たとえ産業医活動に従事しなくても、働き盛り世代の疾病予防や健康増進、健康を損なった後の労働

と社会資源の活用などに関する素養があらゆる臨床医に必要です。このように産業衛生が身近なものであることを学生に認識させ、産業衛生への関心を高めることが重要だと考えています。私では不足する部分は非常勤講師のお力を拝借しながら取り組んでいます。

産業衛生を含むかなり広範な領域として設定された社会医学領域の専門性を高め、本領域を発展させるために社会医学系専門医制度があります。私は沖縄県にある研修プログラムの責任者として本制度に関与していますが、私の着任前から長らく専攻医がいない開店休業状態でした。地方では、ただでさえ少ない社会医学領域へ進む医師をさらに本制度の専攻医に導くのはかなりの難題です。同様に困っている研修プログラムが地方には少なくないと見聞きしています。しかし、今年度ようやく2名を専攻医として沖縄研修プログラムに受け入れられたことはうれしいことです。各専攻医の研修の方向は異なりますが、少なからず産業衛生について研修することは確実ですので、産業衛生に長けた指導医のお力を拝借して、社会医学系専門医を輩出できるように尽力したいと考えています。一方、長らくの専攻医不在の間に沖縄研修プログラムの管理運営の関係者とともに考えたことは、現実路線で社会医学系専門医制度に合いそうな人材を専攻医に誘い込む努力です。候補の一つとして、専属の産業医を選任できる大規模事業所が少ない地方では、本務は臨床だが非常勤の嘱託として産業医活動をする医師、あるいは将来にそういう方向を志向する医師が考えられます。しかし、このような考えについては現状では障壁があるように感じ、一研修プログラムの苦情や戯言に過ぎませんが、専攻医がなかなか現れない地方の研修プログラムの存続に関わる問題として、九州地方会の関係ある方々と共有したいです。

以上、産業衛生に関する私の近況と所感を書き綴り、理事就任のご挨拶とさせていただきます。皆様からご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入会や新しいポジションに 就かれたり離れたりした方の声

新入会のご挨拶

産業医 長山 拓希

(三菱重工業株式会社 HR マネジメント部
長崎 HR ビジネスパートナーグループ 健康衛生チーム)



このたび、日本産業衛生学会に入会いたしました長山拓希（ながやまひろき）と申します。2024年4月より三菱重工業株式会社HRマネジメント部長崎HRビジネスパートナーグループ健康衛生チームの産業医として入社しました。熊本市生まれで、浪人時代まで熊本で過ごし、愛知医科大学を卒業後、初期臨床研修の頃より長崎県内で勤務しております。これまで約20年、県内で臨床医として働いて参りましたが、このたび御縁がありまして新人の産業医として地元の大企業に勤務することになりました。

初期臨床研修終了後まもなく日本医師会認定産業医資格を取得し、5年毎の更新はできておりましたが、産業医の実務経験はありませんでした。この4月以降、これまでとはまったく異なる仕事内容、職場環境で毎日のように冷汗・脂汗をかいていますが、職場の健管スタッフから優しくフォローしていただきながら、少しずつ産業保健業務に慣れ始めているという状況です。製造業の現場は、当初の私の想像以上に過酷な労働環境のところが多く、職場巡視等で社員が汗を流して働く姿を見ていると、いつも背筋が伸びる思いがいたします。今後、社員の安全と健康のために少しでも尽力・貢献できればと思っております。

産業保健業務を行うにあたって、情報の入手や更新、ケースのご相談など、産業衛生学会の方々には今後大変お世話になるかと存じます。また、災害等の有事の際を含め、地方特有の問題・課題というのは産業保健に限らずどの領域においても存在するのではないかと想像しており、地方会のメンバーの方々との定期的な情報交換も肝要と認識しております。今後、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新入会のご挨拶

矢田部 尚子

(福岡歯科大学 口腔保健学講座)

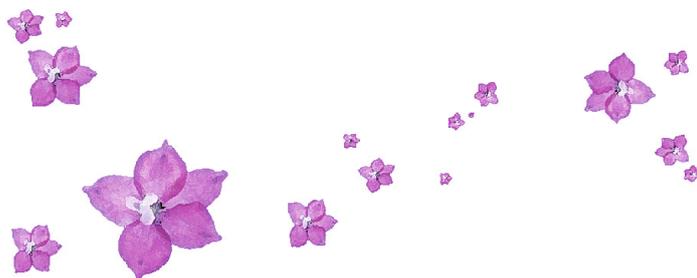


はじめまして。この度、日本産業衛生学会に入会させていただきました。福岡歯科大学を2014年に卒業し2020年に入局しました。医科歯科総合病院では総合歯科・口臭クリニックに所属しておりますが、予防歯科学、衛生・公衆衛生学、社会歯科学、健康科学の領域を中心に、研究・教育・診療に

取り組んでいます。

2022年に大分県で開催された日本産業衛生学会九州地方会学会では、「加熱式タバコを含む喫煙者の多い職場での口気測定の結果説明と禁煙動機獲得の関連性」の口演発表をさせていただきました。この研究では、労働者への禁煙の啓発を目的とした健康イベントを企画した際に、よく知られている呼気（肺から出る空気）の測定に加え、歯科からのアプローチとして口気（口の中の空気）の測定、すなわち口臭リスクの測定結果を同時に提示することで、禁煙の動機づけに良い影響を与えることを目指しました。その結果、それは加熱式タバコの利用者にも有効であることが示唆されました。学会に参加された先生方と活発な議論ができ、非常に充実した時間を過ごせたことを今でも鮮明に覚えています。本事業は介入研究デザインではなかったため、傾向スコア分析も行い、意外に奥が深いことに気づかされた段階です。例えば、傾向スコアの統計モデルを考える際、連続変数をカテゴリー化するのには良い場合と良くない場合があること、同じ連続変数でも、変数Aと変数Bを別々に投入するのと、変数A×変数Bのみ投入するのでは、異なる結果になることは新たな発見でした。この過程で得られた知見をもとに、将来の研究デザインや解析方法をさらに改善していきたいと思っております。

今後は、歯学生への教育の一環として、働く人々の健康を守る産業衛生教育にも携わっていきたくと考えております。引き続き、ご指導の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。



産業薬剤師として活動するために

井上 真奈美

(大同メディカル にしあいら薬局)



この度、日本産業衛生学会に入会しました。この紙面をお借りして、ご挨拶させていただきます。私は、鹿児島県の中央部にあります姪良市の保険薬局に勤務しております。また、日ごろの薬局業務の他に、学校薬剤師としても活動を行っております。この学校薬剤師の活動が、産業保健に興味をも

つきっかけとなりました。

ここで、学校薬剤師について、一部紹介させていただきます。学校薬剤師は、児童生徒等の健康を保持増進し、学習能率の向上を図るために、大学以外の学校や幼保連携型認定こども園に設置されています。具体的な活動としては、教室の環境に係る検査として空気・明るさ・騒音の検査を、水質検査として飲料水・プール水の検査を、清掃や学校の備品の検査として衛生害虫への対策・理科室や保健室等の薬品管理・黒板の色彩検査を定期的に行っています。その他にも給食室の衛生管理、災害時に学校が避難所として使用された場合の公衆衛生活動を行うこともあります。普段は薬局や病院などに勤務する薬剤師が学校薬剤師の任に当たることが多いですが、学校薬剤師の職務は上記のように環境衛生活動への関与が主体となるため、医薬品に関する知識に加えて、公衆衛生学、衛生化学等の知識や技能も必要となります。

私は学生のときに公衆衛生学教室に在籍していたものの、卒業後は全くその道の学習から遠ざかっており、もっと学びを深めたいという思いがありました。そんな中、鹿児島大学大学院教授の堀内先正久先生のサポートを得ながら、鹿児島県の有志の薬剤師で、鹿児島産業薬剤師チーム（通称：K-OPT）が結成されました。このK-OPTには、すでに産業衛生学会の会員として活動されている先生も複数在籍しています。K-OPTは検診支援、両立支援、化学物質管理支援を3つの柱として掲げており、労働環境に関連する健康障害の予防や疾病予防のための活動を行っています。いわば、社会版学校薬剤師としての活動です。現在は定期的に研修会を実施し、継続的な活動を行っています。私もこのK-OPTの一員として現在活動を行っており、この活動を更に進めていくために、産業衛生学会に入会し、知識を深めていきたいと思った次第です。また産業衛生学会では、産業医の先生方や産業保健スタッフの方々の取組みを学ばせていただき、今後の連携を構築できればよいと考えております。

九州地方会会員の皆さま、今後ともどうぞよろしく願います。

退職のご挨拶

大藪 貴子

(産業医科大学 労働衛生工学研究室)



私は、本年7月末日を持ちまして、産業医科大学を退職いたします。この紙面をお借りして、これまでの皆様のご厚情に感謝申し上げます。

思えば大学卒業後、労働衛生工学研究室に配属され、当時は秋山高教授のもと、活性汚泥による水処理に関係しておりました。今考

えれば活性汚泥のコスバの良さは大変すばらしいものでしたが、時折膨張して、処理槽からあふれ出してしまい、お手上げ状態の時もありました。その後、私が化学出身であったことから、田中勇武教授から実験動物に曝露した粒子の肺内沈着粒子量を定量する仕事に携わらせていただきました。肺内に沈着した粒子を分析機器を用いて定量することにより、粒子径による沈着量の違いや粒子の有害性による粒子の肺からの排泄速度の違いなどを算出でき、毎日がとても楽しく、あっという間に時間が過ぎていきました。退職する年齢になり、自分に足りないこともたくさん見えてきた昨今ですが、今後は、皆様のお役に立てるのであれば、少しでも恩返ししていきたいと思っております。

在職中は大変お世話になり、ありがとうございました。

皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



部 会 報 告

産 業 医 部 会

小田原 努

((公社)鹿児島県労働基準協会
ヘルスサポートセンター鹿児島)

暑い日々が続いておりますが、皆様お変わりないでしょうか。九州産業医部会では、例年1月頃に研修会を開催しておりますが、本年度も2025年1月25日(土)に博多駅周辺の会場で研修会を開催する予定です。

本年度は、「産業保健に役立つ目の話」というテーマでむらかみ

眼科医院の村上美紀先生に講義をお願いしております。村上先生は眼科医として、現場でご活躍されながら、産業保健にも造詣が深く、産業保健に有益な実務的なお話を提供していただけるものと思っております。九州産業医部会幹事の方からも事前に訊きたい質問を募集し、「眼科医・産業医両方の視点から眼科疾患と就業制限・配慮(この疾患はこういった配慮しなければいけない、した方がいい等)の実例含めご教示」、「産業保健職が知っておきたい眼科のコモンディゼーズについて」「人間ドックの眼底検査で毎年有所見(乳頭陥凹や白斑など)への指導」、「眼科スクリーニングとしての眼底検査、視野検査、OCTの有用性など」「就業に必要となる視機能を評価するにあたって知っておくとよい指標や検査について」、「運転業務(二輪、四輪)の制限が必要な眼疾患や判断基準について」等、多岐の質問を事前にお伝えしております。限られた講義の中で、全てにお答えをお願いすることは無理かとは思いますが、日頃、感じている疑問について、お話が聞けることを楽しみにしております。研修会の詳細につきましては、後日ホームページ等でもご連絡いたします。多くの皆さまのご参加を期待しております。

産 業 保 健 看 護 部 会

大森美保

(日本赤十字豊田看護大学
看護学部看護学科 公衆衛生看護学)

2024年4月から新ルールによるリスクアセスメント対象物質の特殊健康診断が開始されました。これに伴いまして、九州地方会産業保健看護部会では、産業保健看護職として必要な化学物質の自律管理の基礎から実践知識の習得を目的とした産業保健看護研究会を2024年1月20日(土)、リファレンス大博多ビルにて開催しました。テーマは「産業保健看護職のための化学物質管理」～初めてでも理解できる自律管理の基礎から実践まで～とし、NAOSH コンサルティング 中原浩彦先生にご講義いただきました。はじめに、産業保健看護職に必要な化学物質管理の基本についての講義があり、実際にSDS(安全データシート)を見ながら化学物質の有害性の確認を行いました。その後、事例を用いてCREATE SIMPLEを使用したリスクアセスメントを体験し、最後に、化学物質管理における産業保健看護職の役割についての意見交換を行いました。対面でのグループワークであったこともあり、ご参加いただいた21名の皆さんが和気藹々かつ真剣に学び合っていた姿が印象的でした。

事後のアンケートでは、「満足」との回答が100%、「理解が深まったか」「自身の業務で活用できそうか」の質問



では100%が「理解が深まった」「活用できる」とそれぞれ回答されました。自由記述では、「化学物質のリスクや危険性など、認識が薄かった事を改めて痛感した」「何から始めればいいのかわからなかったが、具体的な方法が身につけられた」などのほか、有意義であったというコメントを多くいただきました。

最後に、私事で恐縮ではございますが、日本産業衛生学会九州地方会を離れ、東海地方会に異動することになりました。8年弱ではございましたが、アットホームな雰囲気の中、九州地方会産業保健看護部会の役員の皆様や多くの方々楽しく学会活動をさせていただき、有益な経験ができましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。学会や研修会へのご参加や学会への入会をお迷いの方は、ぜひ一度、日本産業衛生学会九州地方会学会や研修等の現地に赴かれ、その雰囲気と魅力をお感じいただければ嬉しく思います。

産業歯科保健部会

谷口 奈央
(福岡歯科大学)



広島市で開催された日本産業衛生学会で『職域における眼底検査の意義と課題』というシンポジウムに参加し、アイフレイルという言葉が初めて耳にしました。アイフレイルは、フレイルやオーラルフレイルに次ぐ3番目のフレイルであると紹介されていました。それを受け、ふと、オーラルフレイル

の概念が他職種の方々にどれくらい浸透しているのかと考えました。オーラルフレイルは2014年に日本で初めて提唱され、現在の定義は「歯の喪失や食べること、話すことに代表されるさまざまな機能の『軽微な衰え』が重複し、口の機能低下の危険性が増加しているが、改善も可能な状態」とされています。2023年には新たな評価指標 (Oral frailty 5-item checklist) が発表されました。この指標は、①歯数減少 (自分の歯は何本ありますか)、②咀嚼困難感 (半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか)、③嚥下困難感 (お茶や汁物等でむせることがありますか)、④口腔乾燥感 (口の渇きが気になりますか)、⑤滑舌低下 (普段の会話で、言葉をはっきりと発音できないことがありますか) の5つの項目で構成されています。簡単で非侵襲的かつコストのかからない方法なので、高齢労働者のオーラルフレイル対策として意義があると考えられます。また、オーラルフレイルは歯・口腔の健康維持・向上に努めることにより予防することが可能です。『骨太方針2022』

に生涯を通じた歯科健診 (いわゆる国民皆歯科健診) の具体的な推進が盛り込まれるなど、歯科の重要性が高まるなか、産業保健における歯科に関する多職種連携での取り組みが今後も加速化することが期待されます。

さて、九州では産業歯科保健は基盤づくりの段階です。2024年2月に開催したセミナーでは、熊本大学大学院教授の加藤貴彦先生と、初代産業歯科保健部会長の藤田雄三先生にご講演をお願いしました。加藤先生は歴史的考察を交えつつ労働衛生と口腔医学について、藤田先生はこれまでの産業歯科保健活動の成果をもとに、産業歯科保健が目指すものについて、それぞれお話しくださいました。セミナーの冒頭には堀内正久先生が地方会会長としてご挨拶くださり、産業歯科保健部会長の安田理恵子先生も現地に駆けつけてくださいました。日本産業衛生学会会員以外にも、産業歯科保健に関心を寄せる方々が多数参加され、ディスカッションも大いに盛り上がりました。その後の懇親会では、九州産業歯科保健部会のマスコットキャラクターを決めるデザインコンテストが行われ、『はにかむハッチ』(地方会学会のご案内第3報をご参照ください) が誕生しました。働きバチが運んでいるハニカムを、歯のエナメル質の六角柱状結晶になぞらえています。労働者の疑問にハッチが答えを運びます。歯の疑問に答える多職種連携の試みにご理解とご協力をお願い申し上げます。



産業衛生技術部会

宮内博幸
(産業医科大学)



2024年5月22日～25日に開催された広島市第97回日本産業衛生学会において、産業衛生技術部会専門研修会と産業衛生技術部会フォーラムが開催されました。

5月23日に開催された産業衛生技術部会専門研修会では、「自律管理の時代における技術者と技術専門家の倫理—測定等に関して」

をテーマに、橋本晴男氏（橋本安全衛生コンサルタントオフィス）、齊藤宏之氏（労働安全衛生総合研究所）の司会のもと、堀江正知氏（産業医科大学）から「自律的な化学物質管理に関する専門家の倫理」と題して、技術専門家の倫理の基本に関して基調講演が行われ、中村剛氏（東北大学）からは「自律管理の時代における技術者と技術専門家の倫理—作業環境測定における倫理的課題」と題して、作業環境測定において遭遇した倫理的課題や対応等について報告が行われ、飯田裕貴子氏（(株)環境管理センター）からは「自律管理の時代における技術者と技術専門家の倫理—アスベスト調査・測定における倫理的課題」と題して、特にアスベスト関係の倫理的な課題と企業としての対策等について説明が行われました。また、指定発言者の持田伸幸氏（ENEOS(株)）からは、米国の専門コンサルタント（ハイジニスト）の経験に基づいて、欧米での技術者倫理の実践や実情が紹介されました。参加者からも測定等における倫理上の課題への対処方法や今後の課題、取り組み方に関する発言が行われるなど活発な議論となり、示唆に富む内容でした。

5月25日に開催された産業衛生技術部会フォーラムでは、「化学物質の自律管理の実践—現場でのリスクアセスメントと測定—」をテーマに、奥田篤史氏（富士清空工業所）、森洋氏（秋田環境測定センター）の司会のもと、橋本晴男氏（橋本安全衛生コンサルタントオフィス）から「複雑・多様化している測定の選択肢—どう解釈しどう選ぶか、健康診断への連携を含めて」と題して、CREATE-SIMPLEの最新情報を踏まえたばく露測定から健康管理までの連携について講演が行われ、貴志孝洋氏（筑波大学環境安全管理室）からは「リスクアセスメントをしないリスクアセスメント：「つくばモデル」の構築」と題して、リスクアセスメントの実務について報告が行われ、東久保一朗氏（産業医科大学）からは「コールタールピッチ取扱い作業の呼吸用保護具選定事例」と題して、リスクアセスメントの結果から呼吸用保護具を選定する際に重要となるば

く露測定事例について報告が行われました。また、中原浩彦氏（労働安全衛生総合研究所）からは「化学物質の個人ばく露測定ガイドライン（ダイジェスト版）の紹介」と題して、産業衛生技術部会から公開されたガイドラインの概要が紹介されました。参加者からも活発に発言が行われ、現場で化学物質の自律管理が実践される中、リスクアセスメントの結果や作業環境測定結果に基づくばく露防止措置、呼吸用保護具の適切な選択などに関してとても有益な内容でした。



研修会・学会の報告と予告

2024年度日本産業衛生学会 九州地方会学会のご案内 (第3報)

谷口 奈央

(福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野)

いつまでも暑さが去りやらぬ毎日ですが、皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。今大会のテーマは「多職種のさらなる連携から職場環境の質向上を～Inclusion & Implementation～」です。新型コロナウイルスの流行については、まだ油断できない状況が続いておりますが、学会は現地開催を予定しております。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日時：2024年11月16日(土) 9:00～17:00

会場：福岡歯科大学50周年記念講堂

学会長：谷口 奈央(福岡歯科大学 口腔保健学講座
口腔健康科学分野)

参加費：会 員 3000円(事前参加)／4000円(当日参加)
非会員 5000円 ※当日参加は現金のみ受付

懇親会：ごちそうダイニング ななつの花
(福岡市博多区博多駅前2-2-11、
JR博多駅博多口より徒歩2分)

※参加登録時にお申込みください

一般演題募集：2024年7月1日～8月30日

【プログラム】

8:30～ 受付開始

9:00～ 開会

9:05～10:05 基調講演

森 晃爾(産業医科大学 産業生態科学研究所
産業保健経営学研究室 教授)

『成果が上がる健康経営：健康風土づくりとプログラムの多様性』

谷口奈央(福岡歯科大学 口腔保健学講座 教授)

『健康経営と多職種連携：歯科からのアプローチ』

10:15～11:45 一般口演

12:00～13:00 ランチョンセミナー

13:15～14:15 教育講演

堀内正久(鹿児島大学医歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学分野 教授)

『地方都市における働く世代の健康支援を誰が担うのか
～人が幸せになる社会の仕組みづくりを目指して～』

14:15～15:15 特別講演

鈴木 基(国立感染症研究所 感染症疫学センター長)

『感染症対策の最前線から見る産業保健スタッフのキャリアデザイン』

15:15～16:00 ポスター討論及び特別企画

16:00～17:00 総会および優秀プレゼンテーション賞
表彰

18:00～20:00 懇親会

〈歯科保健部会・特別企画のお知らせ〉

はにかむハッチ(2024年2月4日生まれ)が歯科保健部会アンバサダーに就任し、他の3部会の会員から「職場での歯科保健の疑問」を聞いて(アンケート、ハッチ缶バッジマグネット進呈、数に限りがあります)、会場に隣接する福岡歯科大学医科歯科病院の先生方から集めた回答を学会場でQ&A形式で掲示します。質問は大会HPで受け付けています。多職種連携の試みにご理解をお願い申し上げます。

事務局：福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野
〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話 092-801-0616



大会HP:

<https://sites.google.com/view/saneikyushu2024/ホーム>



2025年度九州地方会学会のご案内 (第1報)

中村 幸志

(琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2025年度の九州地方会学会は、琉球大学大学院医学研究科公衆衛生学・疫学講座が主宰させていただきます。沖縄県での開催は2009年以来となります。申し訳ございませんが、諸事情にて日や場所の決定に至っておらず、本誌でご案内を仰せつかりながら具体的なことをご案内できません。現在の粗い構想だけ申し上げますと、沖縄県以外からのお越しは遠路の旅となりますことから、秋に1日目午後～2日目午前という実質1日の形で那覇市内にて開催する方向を検討しています。できるだけ早い時期に日や場所、プログラム構成をご案内できるように準備を進めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

選挙関連

日本産業衛生学会九州地方会
選挙管理委員会からのお知らせ地方会選挙管理委員会委員長 池上 和 範
(桜十字福岡病院)

2024年は、日本産業衛生学会九州地方会における重要な選挙の年（2年ごと）です。この選挙では、地方会長、代議員、本部理事に加え、地方会理事が選出されます。選挙管理体制およびスケジュールの概要を以下にご案内申し上げます。日程や投票方法、候補者などの詳細については、選挙管理委員会で順次決定し、ご連絡させていただきます。

【選挙概要】

1. 地方会選挙管理委員会の体制

2024年度から2025年度の体制は、以下の通りとなります。

地方会選挙管理委員会委員長

：池上和範（産業医部会）

選挙管理委員会委員

：永田昌子（福岡県）、後藤英之（佐賀県）、
黒崎靖嘉（長崎県）、垣内紀亮（大分県）、
尾池千賀子（熊本県）、門脇康二（宮崎県）、
江並朋子（鹿児島県）、千葉千尋（沖縄県）、
鹿毛美香（産業保健看護部会）、
宮内博幸（産業技術部会）

中央選挙管理委員会委員（九州地区）

：上野晋（福岡県/産業医科大学）

2. 代議員・地方会長・地方会理事選挙

選挙権および被選挙権を有する会員は、2024年7月末までに日本産業衛生学会の会費を納入している方です。8月上旬に確定し、8月下旬に候補者（代議員、地方会長、地方会理事）の推薦依頼をメールにてご連絡します。9月上旬に被選挙権者名簿を確定し、9月下旬に選挙告示を行い、10月上旬に電子投票（約1週間）を実施します。10月中旬に代議員、地方会長、地方会理事が確定します。なお、役員の数はいずれも会員数に応じて決定されますが、2023年3月1日から2025年2月28日までの役員構成は、代議員69名、地方会長1名、地方会理事12名となっています。

3. 本部理事選挙

選挙権および被選挙権を有する会員は、上記の選挙で代議員として選出された方になります。11月下旬に選挙告示を行い、12月上旬に電子投票（約1週間）を実施します。12月中旬に本部理事が確定します。なお、2023年3月1日から2025年2月28日までの九州地方会から選出さ

れた本部理事の数は3名です。

日本産業衛生学会は、産業保健・労働衛生における最前線の専門知識を提供し、業界の発展に寄与しています。学会活動の更なる進化と発展のために、皆様の選挙への参加が非常に重要となります。産業保健・労働衛生の明るい未来のため、奮って選挙にご参加くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

さいごに、選挙に関するご質問や不明点がございましたら、池上（e-mail: senkyo@health-craft.com）までお気軽にお問い合わせください。

理事会報告

2024年度
第1回九州地方会理事会

日 時：2024年8月10日（土） 13:00-14:05

場 所：Web 会議

議 題：

- 2023年度第2回理事会議事録要旨について
- 2023年度事業・決算報告について
- 2024年度事業計画・予算案・会員数について
- 各県の活動支援について
前回の理事会からの継続案件で、地方会長から企画案が提示され、承認された。HP等での広報がなされることになる。
- 2025年度地方会学会準備状況

報告事項：

- 日本産業衛生学会本部関係
※第100回大会に向けて、堀江先生（企画運営委員長）から準備状況が説明された。開催期日は、2027年5月26日～29日が有力とのことであった。今回の選挙で、地方会長や理事、代議員が決まるので、その結果も踏まえて、九州地方会一体となつて、準備にあたる必要性があるとの説明がなされた。
- 選挙関連について
選挙の体制が報告された。投票率アップにあつて、被選挙権者名簿が作成されるが、名前だけでなく、被選挙者の情報などが記載されたものが良いのではと地方会長から意見が出された。
- 2024年度「研究会等」開催について
- 2024年度地方会学会準備状況
- 産衛九州の編集状況
100回大会に向けての準備のために、地方会誌の利用があつても良いとの意見が出された。

編 集 後 記

今年の夏は、外での作業が困難であると感じるほどの暑さが続いています。環境が大きく変わらない限り、この暑熱状況は年々少しずつ悪化していくことが予想され、環境の改善が喫緊の課題と感じます。

さて、今号は、琉球大学の中村理事から巻頭言の執筆をいただきました。社会医学系専門医制度について、この制度を発展させるために、専攻医の柔軟な取り扱いに関する提案がなされております。その他、新しく入会された方や職場を離れる方からご寄稿をいただきました。また、今年は、これから、学会役員選挙が行われます。そのことについて、新しく、地方会の選挙管理委員会委員長になられた池上先生から、報告がなされています。毎回、低投票率(20~25%)が問題とされています。何事も過半数を目指すとなれば、投票率も50%を目指したいところでしょう。そのためには、代議員候補や理事候補の方々の履歴など、情報が提供される必要もあるのかなど、この文章を書きながら思いました。将来的に、会員の交流が目的の地方会でもあるので、本人の許諾の上で、会員情報の共有化なども検討しても良いのでしょうか。

9月に入って、少し暑さが弱まっていることを望みます。今年の夏は、パリのオリンピック・パラリンピックがあり、連日のメダル取得のニュースに日本中が沸いています。日本人を意識する時でもあるのですが、個別の国の利益ではなく、国を超えた世界共通の話題として環境問題などには取り組む必要があります、そのような連帯が生まれることを願うばかりです。

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 2024年9月2日

編集正責任者：堀内 正久 (鹿児島大学)
編集副責任者：江口 尚 (産業医科大学)
編集委員：青柳 潔 (長崎大学)
彌富美奈子 (株式会社SUMCO)
大神 明 (産業医科大学)
加藤 貴彦 (熊本大学)
小田原 努 (ヘルスサポートセンター鹿児島)
黒田 嘉紀 (宮崎大学)
斉藤 功 (大分大学)
住徳 松子 (アサヒビール株式会社)
中村 幸志 (琉球大学)
藤野 善久 (産業医科大学)
森 晃爾 (産業医科大学)

(編集事務局連絡先)

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL (099) 275-5289 FAX (099) 265-8434
E-mail: masakun@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp